

第3章 くにとち市民討議会の検証と評価

1. 市民討議会の有効性

今回の「南の風トーク～くにたち市民討議会～」の実施ベースとなったのは、ドイツで行われている市民参加手法である「プラーヌクスツェレ」を青年会議所が日本独自のアレンジを加えて全国に広がりつつある「市民討議会」である。

平成17年以来、開催手法や中身の違いはあるが、平成21年5月末現在において日本国内で約50回開催されている。

市民参加の手法としては、始まったばかりのもので未だ確立された手法といえない部分もあるが、たった3年間のうちに瞬く間に広がっている事を考えるとその有効性が多くの地域で認められつつあるとも言える。

実行委員会では今まで開催された市民討議会の内容を踏まえ、より精度の高い討議会を実施するために、検討を重ねた。

その際に特に気をつけた点は次の5点である。

- ①全ての面で公平・公正・民主主義的な討議会を目指すこと。
- ②市民の声が適正に報告書に反映されるよう努力すること。
- ③市民中心の誰でも参加しやすい討議会を目指すこと。
- ④上記の①から③を実現するために実行委員会は運営のみに徹し、討議や討議結果に介入しないこと。
- ⑤透明性確保のため検討の経緯については議事録として全て公開すること。

(詳細は国立市役所ホームページ内にありますのでご覧ください。)

特に①と②については手間がかかったり、実施が難しかったりすることも多かったが、限られた予算と人手と時間の中で出来る限り最善の方法を選択すべく検討を重ねた。

その結果として、次のような有効性が確認できたと思われる。国立市では初の試みということもあり、完全な運営が出来たわけではなく、改善点も多く存在するが、今後の市政の運営や市民参加のあり方を考える際には、大変参考になる重要な結果を残すことができたと言ってよいと思う。

なお、実行委員会として市民討議会の運営に関する各項目に対して、実施した内容から検証や評価を行った結果を以下に示す。

(1) 話し合いの結果

運営する側も参加する側も初の試みであり心配していたが、いざ小グループでの話し合いが始まるとそんな心配もよそに積極的な話し合いが行われ、討議ボードの内容からも回を増すごとに質の高い話し合いが行われた。

それぞれのテーマにおけるまとめの意見は、多種にわたり中には特徴的な意見もあるが、南部地域整備基本計画の策定に参考となる内容を備えているまとめも多い結果となった。

(2) 参加者の満足度と参加意識

最初は話し合いに対し不安と答えた参加者も討議を重ねるごとに話し合いに熱がこもり、楽しんでいるようであった。終了後は、「二日間は疲れたが、参加してよかった」という声が多く聞かれた。

参加者の事後アンケートによると、今後市民討議会の案内が届いた場合には日程が合えば参加すると答えた方が72.2%であり、ほとんどの方がまた参加してもよいという反応を示した。また、市民討議会の実施については推進したほうがよいと思うと答えた方が88.9%であることから、参加者の市民討議会の満足度はおおむね高く、市民討議会の参加意識も極めて高いと言える。

(3) 参加希望者

無作為抽出により平成20年11月1日現在で国立市に住民登録又は外国人登録している18歳以上の方1,000人に参加依頼書を送付し、46人から参加の申し込みがあったが、目標としていた50人前後に届かなかった。

2. 検証と評価（プログラムについて）

(1) テーマの設定

市民討議会は、2日間での実施が決まっていたことから、どのような組み立てが適切で、それにはいくつのテーマを設定するのかについて実行委員会で議論した。今回の市民討議会は、南部地域整備基本計画の策定という枠の中での取り組みであることから、先ずは大テーマとして「南部地域のまちづくり」を設定した。

実行委員の中にも南部地域を知らない委員もいたことから、個別のテーマの検討においては、8月に実施した地区説明会での市民の意見を参考に、参加される方が南部地域のことを知らなくても気軽に参加できることを配慮し、大テーマに基づき順次発展的に関連するよう6つのテーマを設定した。

テーマの設定のイメージは、南部地域とはどんな所なのか、どんな特徴があり、どんな課題を抱えているのか、そして今後それらのことをどうすれば国立全域の方々が知っていくことができるのかを前段として、後段で課題解決につなげることとした。

テーマごとに活発な話し合いが行われたが、話し合いの中でテーマ自体の理解や話し合う内容が重複しやすいテーマもあったことから少し苦慮した面も見受けられた。

また、課題の部分はもう少し掘り下げてから次のテーマに進んだ方が参加者もさらに話しやすかったのではないかと感じた。

評価できる点	・参加者にとって気軽に議論ができるよう順次発展的なテーマとした点
改善が必要な点	・抽象的なテーマだったのでわかりやすいテーマにするなどのより具体的な工夫が必要

(2) プログラムの設計

プログラム設計についても、南部地域の知識を持たない参加者でも気軽に話し合いを進めるにはどのような組み立てが適切なのかについて実行委員会で議論した。

参加者には初日の話し合いの前に、話し合いの進め方について十分理解していただくよう全体での説明を行い、初対面の緊張を解きほぐすとともに南部地域についての現状把握を含め、理解しやすく話し合いがしやすいテーマというコンセプトで、南部地域の魅力や課題について話し合いを行った。

さらに、実際に南部地域を見てもらう機会として、20分程度であったが休憩時間中にバスによる南部地域の見学ツアーも実施した。

見学ツアー後には初日の最後として南部地域を広く知ってもらうにはどうしたらよいかについて話し合いを行った。

2日目には、初日の話し合いを踏まえ、南部地域を住みやすくするには、南部地域を豊かにするにはどうしたらよいかという南部地域の将来像についての話し合いを行い、最終的なまとめとして、南部地域を住みやすく豊かにする、を実現するにはどうしたらよいかというこれまで話し合ってきたことの実現方法について話し合いを行った。

初日の午前中は、やはり初対面の人同士ということもあったが、午後からは活発な意見が交わされ、各参加者の南部地域に対する意識の高さが伺えた。

南部地域の見学ツアーは、特に南部地域以外の市民にとっては、魅力や課題となっていることなどを実際に目で確認することができ、ほぼ全員の方が参加されるなどおおむね好評であった。

また、実行委員会でリハーサルを実施し参加者の導線や不測の事態の対応などを事前にある程度確認していたため、当日に体調を崩された方への対応としてスタッフ控室を急遽利用するなどの対応も回り当日は特に問題なく運営することができた。

なお、事後のアンケートの自由回答欄をみると、6つのテーマの話し合いは大変で、テーマは4テーマぐらいで各話し合いの時間の余裕が欲しいとの意見もあった。

評価できる点	・話し合いをしやすいプログラム設計を工夫した点 ・南部地域の見学ツアーを実施した点
改善が必要な点	・より質の高い話し合いの環境を整える工夫が必要

(3) 時間の配分

話し合いの時間については、2日間の日程の中で可能な限り長く出来るように設定し、初日は50分、2日目は60分とした。話し合いに慣れてくると参加者は時間が余るほどスムーズに意見の集約まで行っており、特に実行委員による進行における助言の必要はなかった。

しかし事後のアンケートの自由回答欄をみると、話し合いの時間が足りないという意見もあった。

情報提供者については、一人あたり15分とし、各グループの発表は3分としたが、それぞれにおいて若干設定した時間を超えることがあった。なお、発表については、発表方法の例を示し、回を重ねるにつれ発表に慣れたこともあり、2日目には時間を超えることはなかった。

評価できる点	・全体的に話し合いの配分は良好であった点
改善が必要な点	・より質の高い話し合いの環境を整える工夫が必要

(4) 話し合い体制等

今回の話し合いは、まずAとBとの2つの大グループに分け、その上で5つの小グループに分けて話し合いを行った。したがって、4～5人で1グループという体制になり、話し合いをするには最適の人数であったと思う。なお、大グループの配置は初日と2日目では会場内での前後の位置を入れ替えた。

また、各話し合いごとにグループのメンバーを入れ替え、話し合いは参加者の主体性を優先し、各グループに補助係などの配置は行わず、大グループに1人の補佐を置いたが、ほとんど補佐の必要もなく話し合いが行われた。

グループ発表もAとBとで分けて実施したため、最終的な投票結果についてAとBとで比較することができ、参加者の意見を掘り下げて検討することができたのは評価すべき点であると考ええる。

昼食のお弁当を各グループで食べてもらい、飲み物やお茶菓子も用意することができたので、各グループで打ち解けて意見を交し合う場を作り上げることができたのは有意義であったと思う。

なお、事後のアンケートの自由回答欄をみると、発表の時間が短いという意見や参加者は首から下げる形で名札を付けたが着席した際に見えなくなってしまうので改善が必要との意見もあった。さらに、コーヒーやお茶などの飲物の用意や和菓子によるティータイムを設けるなど参加者に気持ちよく参加してもらうよう配慮した。

評価できる点	・話し合いがスムーズに進行した点 ・参加者をAとBとの大グループに分けた点 ・参加者の主体性を優先した点
改善が必要な点	・名札の工夫が必要

(5) 情報提供

各テーマの話し合いを行う前に、情報提供を行った。

情報提供は、話し合いのヒントとなるようテーマに沿った内容で、情報提供者には市民討議会の趣旨を理解していただき、講演ではなく意見やお話ということでお願いした。

情報提供者の選定は、その属性バランスを中心になるべく異なる視点からの意見等の紹介となるよう配慮し、実行委員会で協議し決定した。

当初は、情報提供者が配布する資料を含め事前の打ち合わせを行うことも考えていたが、そこまでの対応まではしきれず、当日配布資料の確認や用意なども含め事務局側に委ねた形となった。

各テーマにおける情報提供は、話し合いのヒントとなるべく経験談や意見の紹介をコンパクトにまとめ、要領よく説明された内容であった。

なお、事後のアンケートの自由回答欄をみると、情報提供における資料が多かったという意見もあった。

また、話し合いに関する資料の事前配布を求める意見もあったが、市民討議会に参加するにあたって先入観などを持たずに参加者が公平な立場で参加していただきたいという配慮から、関連資料の事前配布は一切行わなかった。

各テーマにおける情報提供の内容等

テーマ	情報提供者	内 容
第1回 南部地域の魅力について	平林 正夫さん (くにたち郷土文化館館長)	南部地域の自然、歴史、農業等の特徴を紹介された。
第2回 南部地域の課題について	関 敏明 さん (国立市農業委員会会長)	農業者、地権者の立場で農業の現状と課題を紹介された。
	田中 和徳 さん (南区自治会会長)	居住者の立場で南部地域の課題を紹介された。
第3回 南部地域を広く市民に知ってもらうにはどうしたらよいか？	田村 信之 さん (地域ポータルサイト推進協会)	南部地域を知っていただく意義や方法等の方向性を紹介された。
第4回 南部地域を住みやすくするにはどうしたらよいか？	佐伯 光貞 さん (前国立市農業委員会会長)	農業者、地権者の立場で土地区画整理事業の経験談を紹介された。
	北島 勝俊 さん (国立市農業委員会委員)	農業者、地権者の立場で農地や湧水などを活かしたまちづくりの必要性を紹介された。
第5回 南部地域を豊かにするにはどうしたらよいか？	阿部 ひろみさん (国立市谷保在住)	居住者の立場で緑と水と農地を残すことが豊かさにつながることを紹介された。
	田中 賢治 さん (JA東京みどり国立地区青壮年部)	農業者の立場で農業経営を取り巻く現状を紹介された。
第6回 南部地域を住みやすく豊かにする、を実現するためにはどうしたらよいか？	高橋 賢一 さん (法政大学デザイン工学部教授)	国立のまちの基本認識と南部地域の目標像等を紹介された。
	佐伯 茂 さん (府中用水土地改良区理事長)	府中用水土地改良区理事長の立場で用水の保全や管理の課題等を紹介された。

評価できる点	・話し合いの参考になる内容であった点
改善が必要な点	・情報提供者との事前の打ち合わせの実施

(6) 参加者のグループ分け

全参加者をAとBとの2つの大グループに分け、話し合いの際には4～5人で1グループを作り、1回の話し合いごとにメンバーをチェンジする方法をとった。これは基本的に「プラーヌクスツェレ」と同じである。

大グループ内でのみメンバーチェンジを行い、大グループをまたいでのメンバーチェンジは行わなかった。これは、プラーヌクスツェレでは参加メンバーの意見の偏りを是正するために必ず25人1セットの2グループを1時間の時差を設けて別地域で並行開催することになった。

本来は時差を設け開催地を変えて2グループを作らなければならないが、人力と予算の都合上、上記の形とした。

運営が多少複雑になったこと以外は現場での混乱等は見られなかったが、参加者が目標の50人を下回ったために1グループあたりのメンバー数が少なくなり大グループとして2つに分ける意味が薄れてしまったことと、報告書としてまとめる際に表記が難しく、情報の読み取りが多少複雑になった点が課題として挙げられる。

評価できる点	・スムーズな運営ができた点
改善が必要な点	・参加者人数による運営上の改善の工夫

(7) 話し合いの内容と投票

「南部地域」という誰もが興味関心を持ち、語れるテーマではなかったため、活発な話し合いができるか危惧していたが、いざ話し合いが始まると全くその心配には及ばなかった。

参加者の意識が高く、各テーマの話し合いを重ねるごとに各々の役割分担も自然にでき活発な討論となり、議論も深まった。

内容においては、市民参加や行政サイドの取り組みなどの提案など、いろいろ出され興味深いものとなった。

発表に関しては、発表者を一人決めて全員の前でグループの意見を、3分以内で発表するという方法を採用した。また、同じ人が発表者にならないようできるだけ全員が発表の機会をもてるようお願いした。どの発表者も3分間という短い時間内で簡潔にわかりやすく自分たちの意見を説明していただいた。

投票は、1回の投票につき、一人あたり5票を同じ大グループ内の他の小グループの意見も対象に入れて、共感する意見に投票した。

投票の方法は、小グループで作成した討議ボード内に直接投票する公開形式ではなく、投票用紙に投票する非公開形式とし、実行委員で集計を行い、各小グループの討議ボードに投票獲得数を記入した。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した話し合いの内容であった点 ・ほとんどの人が発表の機会を得ることができた点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・非公開形式の投票の改善の工夫

3. 検証と評価（運営について）

（1）実行委員会

実行委員会は、公募市民を含む9人体制で、プログラム設計から当日の運営に至るまで行い、委員会の傍聴や議事録を市のホームページで公表するなど客観的な公平性と中立性を確保しながら運営ができた。

実行委員会の所掌事務は次のとおりである。

- ①市民討議会の実施に関すること。
- ②市民討議会の成果及びその手法の効果の検証及び評価に関すること。
- ③市民討議会の実施状況の公開に関すること。
- ④市民討議会の結果を市民提案として市長に提出すること。

実行委員会は、平成20年9月の懇談会を皮切りにこれまで24回開催した。

市民討議会当日までに、委員会内の合意形成づくりや慎重な議論の結果、14回を開催し、中には2日連続での開催や1週間に1回程度の開催が定例的になり、市民討議会終了後の報告書の取りまとめ作業においても同様な傾向となった。

実行委員会は、平日の午後7時からの開催でありボランティア参加でもあったため、委員の負担増は今後の課題として挙げられる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会設置要綱により、役割と責務を明確にした点 ・公募枠を設けた点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の運営の改善の工夫 ・実行委員への負担の軽減

（2）スタッフ

市民討議会の実施にあたり、受付、会場内誘導や案内、傍聴者対応、司会、発表補助、記録、参加者の介助役などの各役割が必要であり、実行委員会と事務局だけでは対応ができないため、当日のスタッフとして延べ30人の社団法人立川青年会議所会員の協力を得た。

また、手話通訳の手配や保育士資格を有する者による託児所の設置を視野に入れて準備をしていたが、対応するには至らなかった。

市民討議会当日は、実行委員及びスタッフは名札を付け、参加者に気持ちよく過ごしていただけるよう、おもてなしの心で運営するよう努めた。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会が市民の立場と行政の立場とを共有できた点 ・多くのスタッフの参加があった点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・運営に関する共通理解の構築の工夫

(3) スケジュール

市民討議会の実施までの準備期間は、実行委員会の実質的な立ち上げから約4ヶ月しかなく、準備期間は短かったが実行委員会の開催を増やすなどにより補った。

周知や広報、市民の無作為抽出作業や種々の連絡、印刷物の作成から発送、準備資料の作成などを時間的余裕度の少ないなかで行った。

特に、市民討議会のテーマの設定とそれに伴う情報提供者の選定については、実行委員会内での意見調整と集約に多くの時間を確保した。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的余裕が少ないなかでも実行委員会と事務局との効率的な連携により効果的な市民討議会が実施できた点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・市民討議会の実施までの準備期間に時間的余裕を確保する点

(4) 費用等について

これまでの市民参加は、審議会などの公募型参加を除きそのほとんどが無償であったが、市民討議会の趣旨を尊重し、参加者には2日間で6,000円の謝礼を支払った。

費用については、平成20年12月8日付け社団法人立川青年会議所理事長と国立市長との間で締結した国立市南部地域整備基本計画の策定に伴う市民討議会の実施に関する覚書と国立市南部地域整備基本計画の策定に伴う市民討議会の経費に関する確認書に基づき次のとおり費用を負担した。

項目	内容等	執行額(円)	負担区分
会場費	会場備品	模造紙、事務用品等の消耗品	11,500 市
報償費	謝礼金	情報提供者	130,000 市
	謝礼金	市民討議会参加者	210,000 市
食糧費	食事代	市民討議会参加者昼食(二日間)	73,800 立川J C
	飲物代等		15,781 立川J C
通信費	印刷代	発信及び返信封筒	32,550 市
	郵送代	参加依頼、再案内、参加決定通知の送付 参加申込書、アンケートの返信	150,280 市
その他	バス使用料	3台分	173,250 市
	印刷代	報告書簡易製本(250部)	29,400 市
計			826,561

※立川J C：社団法人立川青年会議所

評価できる点	・行政で会場内看板の作成を行うなど経費の軽減を図った点
改善が必要な点	・情報提供者と市民討議会参加者への謝礼額の検討

(5) 会場設営

会場は、参加者を市内全域から無作為抽出により選出することから、参加者の交通の便や所在位置の点から実行委員会で検討した。

しかしながら、目標としている50人を収容できる会場は限られ、候補の会場がすでに予約が入っていたことから、最終的に南部地域のことをテーマに市民討議会を開催するのでその地域にある施設としてくにたち南市民プラザを会場とすることで決定した。

市民討議会が土日の開催ということで交通の便のことを配慮し国立駅南口、谷保駅北口及び矢川駅北口を巡回する送迎バスを用意した。

事前に会場の下見を兼ねてのリハーサルで当日の人の導線や音響設備の確認を行ったため、当日の運営は特に混乱もなく実施できた。

評価できる点	・市の施設のため使用料の減免を受けられた点 ・南部地域内の会場で開催した点
改善が必要な点	・50人を超える規模での開催やテーマによっては会場の検討

4. 検証と評価（参加者について）

(1) 無作為抽出方式の人選

平成20年11月1日現在で国立市に住民登録又は外国人登録している18歳以上の1,000人を無作為抽出により選出し、参加依頼書を送付したところ最終的に46人から参加の申し込みがあったが、目標参加者数の50人前後に届かなかった。

評価できる点	・無作為抽出のため選出者は住所等のバランスが良好である点
改善が必要な点	_____

(2) 参加者への謝礼

参加者には2日間で6,000円、1日参加の場合は半額の3,000円の謝礼を支払った。

これは、謝礼があることにより参加者が責任感を持って話し合いを行ってもらえるという理由と市民討議会の趣旨を尊重したものである。

また、当初は謝礼に記念品を添えることを実行委員会で検討したが、適切な品等が見当たらないことと謝礼額は6,000円で妥当ではないかとの判断から今回は見送ることとした。

評価できる点	・有償による市民参加という形式を提示できた点
改善が必要な点	・謝礼額の検討

(3) 参加者人数

1,000人に参加依頼書を送付したところ最終的に46人から参加の申し込みがあったが、目標参加者数の50人前後に届かなかった。

参加依頼書を受け取った方が参加を決めかねている時の不安を軽減するため、予め想定できる質問とその回答をチラシにして参加依頼書に同封したり、追加の案内としてはがきを送付するなどの工夫を行った。

市民討議会の当日は、都合などにより2月21日は36人、2月22日は34人で当初の参加申込者数から10人が減ってしまった。

無作為抽出のため選出者の住所等のバランスが良好であることは当然であるが、実際に参加される段階での住所等のバランスは一概に良好であると言えない部分が現実的には生じた。

評価できる点	・無作為抽出者に参加依頼書の他に改めて追加の案内をした点
改善が必要な点	・市民に対する事前周知の工夫 ・無作為抽出の対象人数の拡大

(4) 参加者の反応

参加者の事後アンケートによると、今後市民討議会の案内が届いた場合には日程が合えば参加すると答えた方が72.2%で、テーマによっては参加すると答えた方が25%であり、合わせると97%の方が参加の意向を示している。

参加者の事前アンケートで参加依頼書を受け取った感想を進んで参加しようと思ったと答えた方が19.4%に留まっていたことから考えると、参加者の市民討議会参加後の満足度はかなり高いと言えよう。

また参加者の事後のアンケートの自由回答欄をみると、南部地域のことがよくわかり勉強になった、まちづくり全体の関心が高まった、ぜひまたこのような市民討議会を開催してほしいなど、好意的なものが多数寄せられた。

これらの結果から2日間の討議会の経験を経て、参加者の市民参加への関心が高まったと言える。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の高い満足度が得られた点 市民参加の意識向上が見られた点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の市民参加への関心を、今後どのようにつけていくかを具体的に示す必要性

5. 検証と評価（広報について）

広報活動は、市報の掲載、ホームページでの公表、ポスター、チラシの掲示や陳列という行政側の取り組みと社団法人立川青年会議所のホームページでの情報発信やプレスリリースが主であり、成果としては次のとおりである。

情報の発信	市報「くにたち」掲載：計5回 平成20年 8月 5日号（実行委員会の公募について） 12月 5日号（市民討議会の開催について） 平成21年 1月 5日号（市民討議会の開催について） 2月 5日号（市民討議会の開催について） 4月20日号（中間報告会の開催について）
	ポスター掲示 市内55箇所の広報掲示板と市役所内7箇所の掲示板に掲示
	チラシの陳列 市役所、公民館、北市民プラザ、南市民プラザ、中央図書館、福祉会館、地域整備課窓口にチラシを各30枚陳列
	プレスリリース 平成21年2月4日に立川市政記者クラブ、アサヒタウンズ、多摩リビングに記事を送付
両日の来場者（累計）	見学者22名（都議会議員1名、市議会議員5名、その他16名） 報道機関1社

（1）ホームページ

ウェブ上での情報発信は重要ととらえ、市のホームページで実行委員会の開催予定や会議内容等を順次公表した。また、社団法人立川青年会議所のホームページでの情報発信にも努めた。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> 市や社団法人立川青年会議所のホームページで実行委員会の会議内容等を情報発信した点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> 南部地域のまちづくりから検索することとなり、情報に到達するまでに時間を要す点

（2）チラシ等

チラシは市役所の印刷機で作成し、参加依頼書に同封するほか、市役所をはじめとした各施設に陳列した。

また、A4判の両面印刷であったチラシの両面をA3版に配置したものをポスターとして、市内55箇所の広報掲示板と市役所内7箇所の掲示板に掲示した。

評価できる点	・行政で作成したため経費の軽減を図った点
改善が必要な点	・伝達する情報が多かったため改善の工夫

(3) プレス対応

市民討議会開催直近の平成21年2月4日にプレスリリースを行った。リリース先は、立川市政記者クラブ、アサヒタウンズ、多摩リビングの17箇所で、そのうち朝日新聞と東京新聞の2社から事前の取材があり、当日の取材はマイテレビ1社であった。

評価できる点	・基本的に取材を認めた点 ・参加者に取材を周知した点
改善が必要な点	・プレス対応の検討

6. 検証と評価（市民討議会開催後の取り組みについて）

(1) 討議結果の通知

2月22日の市民討議会終了後の3月23日に、参加者に対してグループ討議及び投票結果と参加者事前及び事後アンケートの結果の集計整理を送付した。

評価できる点	・参加者への継続的啓発と動機付けを行った点
改善が必要な点	・迅速な取り組み

(2) 中間報告会

市民討議会の実施報告書をまとめるにあたり、討議ボードの資料化や討議結果などの確認のために平成21年4月24日（金）午後7時から国立市役所で中間報告会を実施した。

中間報告会には市民討議会に参加された36人のうちの半数である18人が参加し、実施報告書の構成と内容案や討議結果に基づく分析などを説明し、市民討議会当日の討議結果の変更等に関する意見は受けることはできないとの前提のもとに参加者から意見をいただいた。

中間報告会でいただいた意見等は、何かしらの形で実施報告書に反映することとし、中間報告会を終了した。

なお、中間報告会に参加できなかった方々に対しては、郵送で資料等を配布し意見を寄せていただくよう対応した。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの結果を分析し、その方向性を参加者に確認した点 ・欠席者に対する対応を行った点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者に対する中間報告会内容の事前周知 ・参加者の把握の検討（電話にて確認した）

(3) 報告書

市民討議会の目的は、国立市南部地域整備基本計画の策定にあたり参考とするための市民討議会の結果と今後の市民参加の取り組みとしての市民討議会の有効性についての検証や市民討議会の実施に関した検証及び評価を行ったものである。

この報告書は次の4章から構成されている。

第1章の総論では、目的や意義など、第2章の話し合いの結果と市民からの提案では、分析方法と結果など、第3章のくにたち市民討議会の検証と評価では、有効性や検証と評価、そして第4章の展望として市民討議会の展望で結んでいる。

各実行委員がそれぞれの所管と責任に基づいて分担してまとめることとした。その際、市民の意見と話し合いの結果をできるかぎり客観的かつ忠実に反映させた上で編纂することに努めた。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な分析に最大限努力した点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・簡潔さとわかりやすさ ・資料のまとめ方の工夫

(4) 事後のフォロー

実行委員会の役目は本報告書の提出で完了する。市民討議会に参加された方々の参加意欲の向上や参加できなかった方々における関心の高さなどが見てとれたが、これらの市民の受け皿としての組織が必要であると考えます。

なお、本報告書は市民討議会の参加者に送付することとした。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・本報告書を市民討議会の参加者に送付した点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・事後のフォローとしての組織の構築ができていない点

